

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度技術情報について

令和4年度技術情報第2号を発表したので送付します。

令和4年度技術情報第2号

令和4年8月1日
徳島県

7月3半旬に県下12か所から採集したイチゴ苗について、イチゴ炭疽病菌の潜在感染状況を調査した結果、9か所で感染が確認されました(表1)。このことから、今後炭疽病の発生が懸念されます。

現地ほ場においては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：冬春イチゴ

病害虫名：炭疽病

1 発生地域：県内全域

2 発生時期：8月～

3 発生状況

(1) 7月12、14日に、徳島市、小松島市、阿南市、阿波市及び佐那河内村の育苗床12か所の苗から複葉を採集し、エタノール浸漬法によりイチゴ炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率は平成28年の調査開始以降最も高く、潜在感染ほ場率は、過去2番目に高かった。

ア 調査方法 : 1か所20株、1株当たり最外葉1枚を採集し、エタノール浸漬法により調査を行った。

イ 潜在感染ほ場率 : 75.0%(平成 61.4%, 前年 84.6%)

ウ 潜在感染株率 : 29.4%(平成 19.9%, 前年 26.3%)

(2) 本年の梅雨明けは6月28日ごろと平成より21日も早かったが、梅雨明け後も曇雨天日が続く日があり、前年と同様に6月の平均湿度(徳島地方气象台)は平成よりも高く推移したことから、やや発生助長的な気象条件であった。

2 防除上注意すべき事項

(1) 本病は主に病原菌が雨滴伝染することにより感染が拡大する。このため、ほ場をこまめに見回り発病株が発生していないか確認し、発病を認めたら、速やかに発病株とその周辺株を除去・処分し、蔓延防止に努める。

- (2) 発病後に治療できる薬剤はないことから、薬剤による防除を定期的(7～10日間隔)に行う。
- (3) 育苗床の湿度を下げるため、葉かきは定期的に行い、株間の風通しをよくする。また、葉かき後は必ず薬剤による防除を行う。
- (4) 風雨による感染を防ぐため、雨よけを行う。また、株元灌水等の水滴の跳ねがない灌水方法を用いる。
- (5) 窒素肥料を多用すると発病しやすいため、適正な肥培管理に努める。
- (6) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針 (<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>) を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



写真1 複葉上に形成された炭疽病菌分子塊



写真2 複葉上に発生した病斑

表1 イチゴ炭疽病潜在感染調査の結果

| 採集地 | | 育苗方法 | 本年の感染株率(%) | 前年の感染株率(%) |
|-----|------|----------|------------|------------|
| 1 | 徳島市 | 三軒屋町 棚育苗 | 60% | 10% |
| 2 | | 八多町 棚育苗 | 0% | 20% |
| 3 | | 棚育苗 | — | 95% |
| 4 | 小松島市 | 横須町 棚育苗 | 0% | 5% |
| 5 | 阿南市 | 加茂町 棚育苗 | 45% | 30% |
| 6 | | 楠根町 棚育苗 | 20% | 15% |
| 7 | | 棚育苗 | 5% | — |
| 8 | 佐那河内 | 棚育苗 | 45% | 11% |
| 9 | | 棚育苗 | 30% | 0% |
| 10 | 阿波市 | 香美 棚育苗 | 60% | 0% |
| 11 | | 吉田 通常育苗 | 25% | 82% |
| 12 | | 西ノ岡 棚育苗 | 0% | 5% |
| 13 | | 日開谷 棚育苗 | 63% | 60% |
| 14 | | 本安 棚育苗 | — | 10% |

○徳島県内の病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

所在地 〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井字石井1660

電話 088-674-1954 ファクシミリ 088-674-3114

URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>